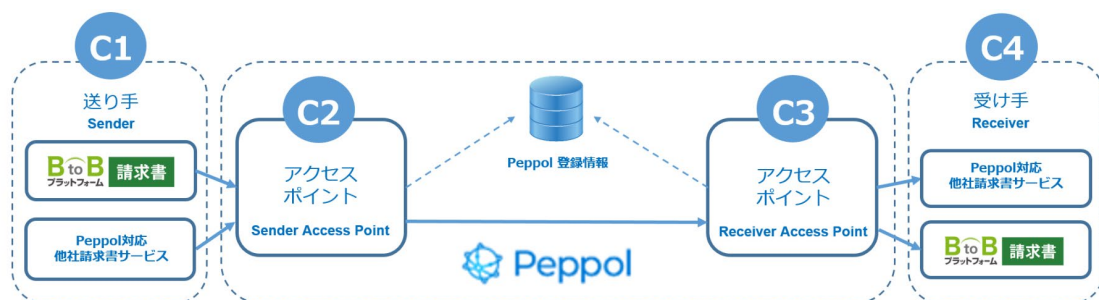


「Peppol（ペポル）」とは？

「Peppol（ペポル）」は国際標準規格で、電子データで作成した請求書や発注書をインターネット上でやり取りする際の標準規格です。規格という言葉には、運用ルールやインターネット、文書の仕様などが含まれます。

「Peppol（ペポル）」とは、アクセスポイントをとおして「Peppol（ペポル）」を使う事業者と簡単に電子データでできた書類をやり取りできる仕組みです。インボイス制度前に「Peppol（ペポル）」が標準化されれば、制度の導入後、事業者は電子インボイスのやり取りが容易になるでしょう。

「Peppol（ペポル）」は「Pan-European Public Procurement On-Line」をもとにしており、もともとヨーロッパにおける公共調達の仕事として作られました。管理や運営を行うのは、国際的な非営利組織「OpenPeppol（オープンペポル）」です。



EIPA（電子インボイス推進協議会）と「Peppol（ペポル）」

2020年7月29日に設立されたEIPAでは、インボイス制度が開始される

2023年10月に向け、「Peppol」を国際標準規格に、そして日本の状況に合った「日本標準仕様」を策定すると決めました。各事業者が、2022年秋に「Peppol（ペポル）」を利用したシステムを運用できるよう取り組みを進めているのです。

インフォマートも幹事法人として取り組みに参加しています。

「Peppol（ペポル）」に準拠した電子インボイスの導入が経理業務にもたらすメリット 5つ

「Peppol（ペポル）」に準拠した電子インボイスの導入が経理業務にもたらすメリットを、5つ見ていきます。

自動化による経理業務の効率化

インボイス制度が始まると、経理に関する処理が増えます。

まず 8%と 10%、2つの税率ごと仕入税額控除に当てはまるかどうか、見ていかなければなりません。また請求書の発行者が課税事業者（適格請求書発行事業者）か免税事業者なのかによっても対応が変わります。それからデータを入力していくため、経理の準備や負担は大きいのです。

しかし「Peppol（ペポル）」という国際標準規格に準拠した電子インボイスを利用すれば、請求書のデータは自動で入力されるうえ分類が可能です。最も手間がかかるとされる仕入税額控除の計算も、システムで自動的に実行できます。

もしインボイス制度が始まったあと各企業で異なるシステムを使っている場合、規格が統一されているため、入力や計算の自動化が可能です。これらによって利便性が向上し、経理業務が効率化されるでしょう。

社内のシステムが連携していれば作業はさらに減ります。たとえば別のシステムに入力されている取引情報を使って、会計システムの処理を自動化できるといったものです。こうした自動化ができれば、帳簿と照合する作業もなくなりますし、全体的な管理や検索にかかる手間も減るでしょう。